

「組織事故」: ジェームズ・リーズン著、塩見 弘 監訳 / 高野 研一、佐相 邦英訳、日科技連。ISBN 4-8171-9099-X (定価 4200 円 + 税)



目次	
第一章	: 潜在的な危険性、防護と損害
第二章	: 崩れゆく防護
第三章	: 危険な防護
第四章	: 人間の貢献
第五章	: 保守がシステムをだいなしにする
第六章	: 安全空間を航行する
第七章	: エラーマネジメントのための実践的ガイドライン
第八章	: 規制者のつらい定め
第九章	: 安全文化をエンジニアリングする
第十章	: 安全管理に向けた多角的なアプローチの調和

ヒューマンファクター研究の泰斗、英国マンチェスター大学のジェームズ・リーズン教授の著書、「Managing the Risks of Organizational Accidents」の翻訳である。序文の中でリーズン教授が「本書は、純粹学問的な興味からの読者は想定していない。... 現場での作業や管理に携わっている人、特に日々潜在的な危険性をはらんでいる技術システムの管理・運営に関わっている人たちに焦点をあてている」と述べているように、本書はヒューマンファクターやヒューマンエラーの特定分野を対象を限定したものではなく、広くシステムや組織が関わる事故について、チャレンジャー号やチェルノブイリ発電所の事故からベアリング証券の破産まで、さまざまな分野の具体的な事例を紹介しながら、組織に潜むリスクに対する防御と管理を理論と実践の両側面から紹介している。